

厚生労働科学研究費補助金(がん対策推進総合研究事業)
分担研究報告書

一般医療従事者向けの遺族へのケアに関する手引きの作成と遺族外来に関する研究

研究分担者

加藤雅志 国立がん研究センターがん対策情報センター がん医療支援部長

研究協力者

竹内恵美 国立がん研究センターがん対策情報センターがん医療支援部 研究員

研究要旨

国内外で発行される医療者向けの手引きを文献レビューし、本研究班で開発する手引きの目的や読み手、内容について研究班内で話し合い、方向性を定めた。死別前後の家族および遺族のケアを目的とする手引きを今後開発する。

A. 研究目的

本研究では、一般医療従事者向けの家族及び遺族に対するケアの手引きを開発し、研修会を開催することを最終的な目的としている。当年度では、手引きおよび研修会の案を作成すると同時に、遺族ケアの実態を明らかにするためにアンケート調査を実施した。

B. 研究方法

国内外で発行している医療従事者向けの家族および遺族ケアに関する文献を参考に手引き案を作成し、研修会の開催方法や内容について班会議にて検討した。同時に、一般病棟、緩和ケア病棟、在宅診療に勤務する一般医療従事者を対象にインターネットによるアンケート調査を実施した

C. 研究結果

研究班会議での話し合いの結果、研修会はオンラインでロールプレイを2回実施する。加えて、不適切な遺族ケアの動画を上映し、各グループでディスカッションを行う流れになった。アンケート調査結果では、約半数が遺族ケアの阻害要因として時間がないことを挙げていた。労いの言葉をかけることや(34%)家族の思いを傾聴すること(42%)を日常的に行う者は一定数示されたが、心理社会的問題の評価は10%かそれ以下に留まった

D. 考察

研修会ではロールプレイを通して、コミュニケーション能力の向上を図ることが主となった。アンケート調査の結果から、日常的な声

掛けや心理社会的問題の評価が十分に行われていないことが示唆され、時間が限られた臨床現場に適用する遺族ケアの支援方法の教育が必要であることが示された。

E. 結論

教育プログラムの開発を目的とする上では、現状の課題を精査し、それに対応し、かつエビデンスに基づく支援の普及を考える必要がある。アンケート調査や系統的レビュー等を通じてこれまで収集した情報を統合し、我が国の現状に適した遺族ケアの提案を目指す。

G. 研究発表

1. 論文発表
なし
2. 学会発表
なし

H. 知的財産権の出願・登録状況
(予定を含む)

1. 特許取得
なし
2. 実用新案登録
なし
3. その他
なし